

記者発表資料

(県 政)

株式会社たねや×滋賀県 「建築物木材利用促進協定」の締結 (県内第1号) ～令和5年11月9日(木)に協定締結式を行います～

滋賀県は、株式会社たねやと「建築物木材利用促進協定」を締結します。これは、令和3年10月1日に施行された「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律（通称：都市（まち）の木造化推進法）」において、建築物における木材利用を促進するために創設された制度に基づくもので、県内での締結は第1号となります。

協定締結式

- 日 時：令和5年(2023年)11月9日(木) 11:40～12:00
- 会 場：知事室（滋賀県庁本館3階）
- 出席者：株式会社たねや 代表取締役社長 山本 昌仁 氏
滋賀県知事 三日月大造

協定（構想）の目的・内容

株式会社たねやが掲げる「建築物木材利用促進構想」について、同社と滋賀県が連携・協力することにより、同社による取組を促進し、構想の達成に寄与することです。

(1) 構想の内容

株式会社たねやは、たねやグループの店舗等の整備にあたり、びわ湖材をはじめとする国産木材を積極的に活用することにより木材の良さを広くPRするとともに、2050年カーボンニュートラルの実現およびSDGs、生物多様性の保全やマザーレイクゴールズ（MLGs）の達成に貢献していく。



新店舗「ラーゴ 大津」※完成イメージ

(2) 構想の達成に向けた取組

株式会社たねやは、新たに整備する大津湖岸なぎさ公園の新店舗「ラーゴ 大津」において積極的にびわ湖材等を活用するとともに、新たに店舗等を整備する際は同様の取組を検討する。また滋賀県と連携して木材利用の意義やメリットについて積極的に情報発信する。

(3) 構想を達成するための滋賀県による支援

滋賀県は、株式会社たねやの構想の達成に向けて、技術的助言や活用可能な補助事業等の情報提供を行うとともに、定期的な意見交換や木材利用に関する相談窓口・専門家の紹介などを行う。また、本協定に基づく取組を優良事例として積極的に広報する。

(4) 対象区域：滋賀県内

(5) 有効期限：令和5年11月9日から令和10年3月31日まで

協定制度について

建築主たる事業者等が、建築物木材利用促進構想の実現のため、国や地方公共団体と連携して木材の利用に取り組むことで、民間建築物における木材の利用を促進し、脱炭素社会の実現や持続可能な社会の実現を目指すものです。

協定締結式当日の取材について

- すべて取材可能です。

滋賀県 × たねやグループ

滋賀県第1号となる「建築物木材利用促進協定」を11月9日に締結

菓子製造販売を行うたねやグループ（本社：滋賀県近江八幡市、CEO：山本昌仁^{やまもとまさひと}）は、2023年11月9日に滋賀県と「建築物木材利用促進協定」を締結します。滋賀県第1号となる本協定では「2050年カーボンニュートラル」や滋賀県が掲げるマザーレイクゴールズ（MLGs）の実現に貢献できるよう、「びわ湖材」をはじめとする国産木材を積極的に使用し、木材の良さや滋賀県についても発信していきます。

今後は、大津市の湖岸に設ける「ラーゴ 大津」（2025年春オープン予定）の店舗や内装、関連する建築物や菓子の包装などにも「びわ湖材」の使用を計画しています。



▲ラーゴ 大津完成イメージ



▲ラーゴ 大津外観イメージ

■建築物木材利用促進協定

事業者が国または地方公共団体と協定を結び、木材利用に取り組むことができる制度。2021年10月の「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律[※]」の改正に伴い創設された。

※都市（まち）の木造化促進法。建築物の木造化・木質化や木を暮らしに取り入れるなど、木の利用を通して持続可能な社会へチェンジする行動（ウッド・チェンジ）を進めている。

■マザーレイクゴールズ（Mother Lake Goals、MLGs）

2030年の環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環の構築に向け、「琵琶湖」を切り口とした13の目標^{ゴール}。滋賀県産の木材の使用は「Goal5 | 恵み豊かな水源の森を守ろう」「Goal6 | 森川里湖海のつながりを健全に」などの目標の実現につながる。

■びわ湖材

滋賀県内の森林から伐採された原木とそれを加工した製材品等。2006年より滋賀県では「びわ湖材産地証明制度」を設け、認定事業者による県産材の管理や産地証明などを行っている。



・未来につなぐ森づくり

日本は世界でも有数の森林国ですが森林の約4割は人の手で植えられた人工林です。人工林に欠かせないのは「伐って、使って、植えて、育てる」サイクル。戦後に植林され、50年以上かけて育った森林は本格的な利用期を迎えています。木材の利用は森林の新陳代謝を進めるためにも重要ですが、まだ課題が残っているのが現状です。

たねやグループでは、ヨシ刈りやラ コリーナ近江八幡（滋賀県近江八幡市）での森づくり、国際非営利団体 weMORI JAPAN^{ワイモリ ジャパン}とともにマダガスカルで植樹を行うなど様々な取り組みを進めています。生き物が暮らし、豊かに水を貯え、二酸化炭素を吸収・固定する。多面的な機能をもつ森林がこれからもあり続けるために。木材の積極的な利用が、人工林のサイクルや滋賀県産木材の魅力をより多くの方に伝えるきっかけにもなると考え、今回の協定の締結に至りました。

■たねやグループの取り組みはHP内「大切にするきもち」で公開しています <https://taneya.jp/sustainability/>

会社概要



株式会社たねや
所在地：〒523-8533 滋賀県近江八幡市北之庄町 615-1
URL：<https://taneya.jp/>

【取材に関する問い合わせ先】
たねや・クラブハリエ 営業部広報室
TEL:0748-31-3844 E-mail:press@taneya.co.jp
※取材いただける際は、事前に御一報お願いいたします。

